

## 令和7年度 JKYLBライフスキル教育研究会東海支部学習会(浜松) 報告

令和7年11月15日(土) 13:30~16:30、クリエート浜松にて、JKYLBライフスキル教育研究会東海支部学習会を開催しました。静岡県での学習会開催は2年ぶりです。養護教諭、スクールソーシャルワーカー等、さまざまな立場の方12名に御参加いただきました。内容は、「チーム学校で取り組むライフスキル教育」をテーマに実践発表と、講演の2部構成で行いました。

### 実践発表 I ライフスキル教育の“次の一步”

秋澤真里(静岡市立大里中学校 養護教諭)

### 実践発表 II 職員と生徒とともに取り組む「秘密の友だち」

齋藤祐子(浜松市立曳馬中学校 養護教諭)

### 講演 チーム学校で取り組むライフスキル教育

村上元良(前綾部市教育委員会教育長、元小学校長、

JKYLB ライフスキル教育研究会 近畿支部支部長)

### 【実践発表】

#### 実践発表 I ライフスキル教育の“次の一步”

ライフスキル教育を体験した“はじめの一歩”から少し進めて、子どもの声を出発点とした取組を組織や地域につなげ、広げていく実践報告がありました。学校の内外でさまざまな関係者と連携しながら楽しく無理なく続けることの成果を学び、参加者は各校での実践のヒントを得ることができました。



#### 実践発表 II 職員と生徒とともに取り組む「秘密の友だち」

生徒の実態を分析し、生徒に合った活動方法等を工夫しながら、長年「秘密の友だち」を実践しているとの報告がありました。生徒が実施する前には、職員同士が「秘密の友だち」を実施し好評だそうです。子どもも大人も自分や相手のよさをみつけ、思いやりの心を感じる機会になることを学びました。



### 【講演】 チーム学校で取り組むライフスキル教育

「何のために仕事をするのか?」という村上先生からの問い合わせで講演が始まりました。私たち教員は、子どもの幸せづくりのため働いていること、また、そのことを学校全体で確認し、同じ方向を向いて進むことが大切だと学びました。他職種・多立場が存在する学校だからこそ、子ども本位の視点を共有し、「子どもにとって何が幸せにつながるのか?」「実践は学校教育目標に沿っているのか?」などをチームで考えていくことの必要性を実感しました。

また、インラクティブアプローチについても教えていただきました。課題解決(現状・今・スタート)からのアプローチだけでなく、目標達成(目標・未来・必要とされる資質能力)の視点からもアプローチをすることで、具現化に近づけるとのことでした。今年度の目標を見つめ直し、双方向からのアプローチを考え、取り組んでいきたいと思いました。

さまざまな健康課題がある現代において、医療や福祉とも連携してライフスキル教育を実践しながらレジリエンス(レジリエンシー)を高めていく必要があることを強く感じました。「乗り越えられる力、困った時に相談できることが大切。そして究極は死なないこと」という村上先生の力強いお言葉に、教員として身の引き締まる思いがしました。教職員のメンタルヘルスが子どものメンタルヘルスにつながることも忘れず、自分自身の幸せも考えながら笑顔で生きていくといいなと感じた一日でした。



## 参加者の声

### ＜実践発表＞

○学校全体でライフスキル教育を進めていくのはハードルが高いですが、興味をもってくれた先生と一緒に少しづつ始めていけばいいと感じました。「友だちの木」や「秘密の友だち」のワークは保健室での活動や学校保健委員会等で生かせると思いました。

○「ライフスキル教育は、新しいことを始めるというわけではなく、今取り組んでいることの中でできること」という言葉がとても印象に残りました。職員の理解と協力を得るために、まずは身近な人と一緒に実践をしてみることから始め、学校に広げていくというところが素敵だと感じました。中でも、担任の先生方の困っているところを上手くピックアップし、「やらされている」ではなく「やりたい」と感じて取り組んでもらうことが大切なのだと分かりました。

○「秘密の友達」を継続的に実施されていることで、子どもたちのさまざまなスキルの向上が数値として証明されていて、とても意義のある活動なのだと改めて感じました。同じアンケートを取り続けることで、学校の傾向も分かり、何事も継続していくことが大変重要なのだなと感じました。教職員の「秘密の同僚」もずっとやってみたいと思っていたので、今回教えていただいた方法で取り組んでみたいです。



### ＜講演＞

○不登校支援をしています。改めて、子どもに寄り添う存在でいたいと思いました。

○困った時、幸せのためには、子どもが有益になるためにはどうすればいいかを考えるという根本の考えがとても印象的でした。子どもたちだけでなく、教職員みんなが、こころよく仕事ができるようにすることが大切だと改めて感じることができました。

○言語化できないモヤモヤが少し解消されました。まずは自分が元気に笑顔で対応できるようにしたいと思います。

○今までの職歴から得られた見識からのチーム学校の取組について、頭の整理がつきました。そして、パワーをいただけました。

○子供の幸せのため、健全な育成のために必要とされるスキルとして、ライフスキル教育を学校全体で進めていくには、校長を始めいろいろな先生方がライフスキル教育について知ることも必要だと感じました。私自身、ライフスキル教育について十分に理解出来ていない部分も多いため、勉強していきたいです。

○改めて、さまざまなことがライフスキル教育につながると感じました。チームとして取り組むことの大切さを学びました。

○チーム学校で取り組むためには、みんなが同じ方向を向いている必要があるとのことでした。とても難しいことだとは思いますが、今一度、学校教育目標や保健目標を振り返り、原点に戻って考えてみることの大切さを実感しました。また「困った時に誰か相談できる大人が一人いれば」という言葉にハッとしました。そういう視点をもちながら、子供と関わっていきたいです。



### ＜全体を通して＞

○ライフスキルについて、もっと勉強させていただきたいと思いました。

○改めて、職務や職場について考えることができました。

○先生方の実践を聞いて、自分も頑張ってみたいと思いました。

○忙しい毎日ですが、初心にもどって、「子どもを幸せにするために！」を意識しながら働いていきたいと思います。実践を学ぶ貴重な時間をありがとうございました。

(文責：畠中)